OUKA
The University of Osaka
Institutional Knowledge Archive

Title	The articular lesions and HLA in juvenile rheumatoid arthritis
Author(s)	村田, 紀和
Citation	大阪大学, 1994, 博士論文
Version Type	
URL	https://hdl.handle.net/11094/38532
rights	
Note	著者からインターネット公開の許諾が得られていないため、論文の要旨のみを公開しています。全文のご利用をご希望の場合は、大阪大学の博士論文についてをご参照ください。

The University of Osaka Institutional Knowledge Archive : OUKA

https://ir.library.osaka-u.ac.jp/

The University of Osaka

氏名	村田紀和（むらたのりかず）
博士の専攻分野の名称	博士（医学）
学位記番号	第 11183 号
学位授与年月日	平成6年3月15日
学位授与の要件	学位規則第4条第2項該当
学位論文名	The articular lesions and HLA in juvenile rheumatoid arthritis （若年性関節リウマチにおける関節病変とHLAの相関）
論文審査委員	（主査） 教授 小野 啓郎 （副査） 教授 岡田伸太郎　教授 越智 隆弘

論文内容の要旨

【目的】

成人の慢性関節リウマチの発症および関節病変と，ヒト主要組織適合抗原であるHLAとの相関については幾つかの報告がみられる。しかし若年性関節リウマチ（JRA）については各サブタイプとHLA class 1抗原（A, B, C）との報告は多いが，class 2抗原（DR）に関する報告は少なく，また関節病変との相関に言及しているものはみられない。今回JRAの関節病変および関節炎の進展，遷延化とHLA-DRのある特定のタイプとの間に相関が認められたので報告する。

【対象ならびに方法】

96名のJRA患者（罹病期間4年以上，平均15.9年）の発症型，調査時病型，頸椎（78名）および股関節（95名）のレントゲン変化について調査した。

HLAタイピングは通常の血清学的方法にて行い，class 1, class 2, の各タイプと関節炎の進展，頸椎病変，股関節病変との相関について統計処理を行った。

【結果】

HLAのclass 1抗原（A, B, C）はJRAの発症型，調査時病型，頸椎病変，股関節病変のいずれについても相関関係を認めなかった。

class 2抗原のDRについては，ある特定のタイプとJRAの関節病変との間に有意の相関が認められた。すなわち，関節炎全体の進展との関連では，DR4（+）患者では82.6%が発症型にかかわらず多関節炎に進展するが，DR4（−）患者では57.1%にすぎず，一方，DR2（+）患者では60%が寛解するのに対し，DR4（+）患者では寛解者はみられない。

頸椎病変としては，成人RAと共通の病変である環軸椎亜脱臼（AAS）を有する患者ではDR4が83%に陽性であるが，JRAに特異的な後方関節強直（AAPJ）を呈する患者では29%，頸椎病変を認めない患者では10%に陽性であるにすぎない。一方，DRw8は3群でそれぞれ25%, 57%, 30%の頻度であった。すなわちAASとはDR4が，AAPJとはDRw8とが密接な相関関係を示した。

股関節病変としては，成人RAと共通の病変である中心性脱臼（RALC）を有する患者ではDR4が67%に陽性であるが，JRAに特異的な臼蓋形成不全様変化（DALC）を呈する患者では50%，股関節病変を認めない患者では45%

で陽性であった。一方，DRw8 は 3 群でそれぞれ33%，67%，18%の頻度であった。すなわち RALC とは DR4 が，DALC とは DRw8 とが密接な相関関係を示した。

以上のことから，DRw8 は JRA の特異的な関節病変に，DR4 は RA との共通する関節病変および多関節炎への進展，遷延化に，DR2 は関節炎の鎮静化に関与していると考えられる。

【総括】

JRA における関節病変と HLA の関連について調査した。class 1 抗原については，従来いわれてた B27 ばかりでなく，いずれの抗原においても関連が認められなかった。class 2 抗原については，DR4 は関節炎全体としての増悪，進展と有意に相関し，DR2 は寛解と相関していた。また頸椎および股関節病変に関しては，DR4 は JRA において認められる成人 RA と同様の関節病変と関連し，DRw8 は JRA 独特の関節病変と関連が認められ，JRA においては複数の遺伝的素因が関節病変に関与していることが示唆された。

論文審査の結果の要旨

若年性関節リウマチにおける頸椎および股関節の関節病変を，成人の慢性関節リウマチと共通して認められるものと，若年性関節リウマチに特異的に認められるものとに分類し，前者が HLA-DR4 と相関し，後者が HLA-DRw8 と相関することを示した初めての報告である。さらに HLA-DR4 は多発関節炎への進展，遷延化に，HLA-DR2 は関節炎の寛解にそれぞれ相関することを示した。HLA-DR との相関関係を通して，若年性関節リウマチの関節炎全体としての転帰のみならず，個々の関節病変の発現にも内因が関与していることを示唆した初めての報告であり，学位に値するものと認める。